

〈だから〉の意味論

竹内泉

産総研

本研究では、〈だから〉という接続詞の持つ論理的意味を議論する。〈だから〉という形態に限らず、〈だから〉と同じ論理的意味を有する表現についても議論する。

これは論理学の研究であって、言語学ではない。言語に特有の事情を議論するのではなく、**therefore** にも **donc** にも所以にも通用する議論である。

〈だから〉という接続詞は、〈PだからQ〉という形で用いられる。本研究では、このPを《前件》と呼び、Qを《後件》と呼ぶ。これは〈ならば〉に関する用語からの流用である。

本研究は結論として、〈PだからQ〉の論理的意味は〈P、かつQ、かつPならばQ〉であると主張する。ここで〈ならば〉は実質含意ではなく文献（竹内 2019）にあるような、情報の遮蔽と伴なう〈ならば〉であり、文献（竹内 2003）にある論理的帰結の様相の付いた含意である。この〈PならばQ〉を、論理的帰結の様相を強調して読み下すならば〈PがQを実質含意することが論理的に帰結される〉となる。

このことを、幾つかの例文によって論証する。

例文 1

今日は水曜であり、水曜は休業日である。だから今日は休業日である。

論理的意味

今日は水曜であり、水曜は休業日であり（前件）、今日は休業日であり（後件）、かつ、今日が水曜であり水曜が休業日であること（前件）が今日は休業日であること（後件）を実質含意することが論理的に帰結される

ここで第三項、即ち論理的帰結の項は、前件と後件の真偽値から真偽が計算されるのではなく、論理規則からその具体例として帰結されるものである。前件も後件も真であるが、その情報は遮蔽されている。

例文 2

水曜休業である事業所にて、火曜に言う

「明日は水曜だから、明日は休業日です」

論理的意味

明日は水曜であり（前件）、水曜は休業日であり（後件）、

かつ、明日が水曜であること（前件）が明日は休業日であること（後件）を実質含意することが論理的に帰結される

ここで論理的帰結の様相は、前件の〈明日は水曜〉、後件の〈明日は休業日〉という情報は遮蔽しているが、〈水曜は休業日〉という情報は遮蔽していない。実質含意の文は〈水曜は休業日〉という前提知識から帰結される。

例文 3

火曜に、カレンダー上の明日の日付を指差して言う

「水曜は休業日だから、明日は休業日です」

論理的意味

水曜は休業日であり（前件）、明日は休業日であり（後件）、

かつ、水曜が休業日であること（前件）が明日は休業日であること（後件）を実質含意することが論理的に帰結される

ここで論理的帰結の様相は、前件の〈水曜は休業日〉、後件の〈明日は休業日〉という情報は遮蔽しているが、〈明日は水曜〉という情報は遮蔽していない。実質含意の文は〈明日は水曜〉という前提知識から帰結される

論理的帰結の様相による情報の遮蔽は、具体的事実を遮蔽して一般的法則を残す、という傾向はあるがそうと限った訳ではない。例文 1 では、〈今日は水曜〉も〈水曜ならば休業日〉も遮蔽され、論理規則だけが用いられた。例文 2 では、〈今日は水曜〉が遮蔽され、〈水曜ならば休業日〉が用いられた。例文 3 では、〈水曜ならば休業日〉が遮蔽され、〈今日は水曜〉が用いられた。論理的帰結の様相による情報の遮蔽の効果は、文脈に依存する。

結論として、〈PだからQ〉の論理的意味は〈P、かつQ、かつPがQを実質含意することが論理的に帰結される〉となる。

文献

（竹内 2003）竹内泉「様相論理の文脈意味論」科学哲学 36 巻 2 号 135～150 頁、2003 年

（竹内 2019）竹内泉「〈ならば〉の意味論」日本科学哲学会大会発表資料、2019 年